



図工室から VOL 7

令和5年10月4日
馬橋小学校



第7回の「図工室から」は、3年生の「土で描く」を紹介します。
土にボンドを混ぜて自分で絵の具を作り、絵を描く学習です。

絵の具は色の粉（顔料）に接着剤（展色材）を混ぜて作られています。接着剤にアラビアゴムを使えば水彩絵の具になり、ポピーオイルを使えば油絵の具になります。日本画では、描く際、画家が自分で顔料と日本画の接着剤である膠（にかわ）を混ぜて絵の具を作りながら制作します。

今回の題材では、絵の具の成り立ちを体験するとともに、指先の感覚を働かせながら土の色や粒子の面白い模様から自分の表したい感じを見つけます。子どもたちは、指先や手のひら全体でざらざらした感覚を楽しみながら色を付けて絵を描きました。複数の色を重ねたり、割りばしなどでひっかいて模様を作ったりして、様々な方法を試していました。乾くと土壁のような表面になるので、描いている時との印象の違いを楽しんで作品鑑賞しました。

